

多摩ニュータウン環境組合

『中期経営計画 ビジョン2022』

評 価 結 果

多摩ニュータウン環境組合

令和5年3月

はじめに

多摩ニュータウン環境組合では、平成30年3月に「環境にやさしい安全で開かれた多摩清掃工場」という経営方針を実現するため、平成30年度から令和4年度までの5年間の取組みを定めた「中期経営計画 ビジョン2022」を策定した。

この中期経営計画の最終年度である令和4年度を終えるにあたり、設定した目標の達成度合いを評価し、また、今後の課題等についても明らかにした。

評価の対象

ビジョン2022では経営方針実現のための計画を、「目標」、「取組項目」、「取組内容」の3階層で構成している。

第1階層の4つの「目標」達成のために第2階層の12の「取組項目」を展開したため、ここでは、5年間の総括として第2階層である「取組項目」ごとの評価を行った。

なお、計画の推進にあたっては、毎年度、第3階層の30の「取組内容」ごとに進行管理を行った。

計画の体系

— 第1階層 — 目 標	— 第2階層 — 取 組 項 目	— 第3階層 — 取 組 内 容
1 安全で安定的な 循環型処理の推進	(1) 効果的な維持管理の推進	① 長期修繕計画の実施 ② 飛灰の削減・搬出方法の検討
	(2) 資源・エネルギーの有効活用	③ 省エネルギー機器の導入 ④ 電力地産地消の検討 ⑤ 資源化の促進 ⑥ 落じん灰回収の検討
	(3) 施設の安定・継続稼働	⑦ ごみ処理区域の再編成 ⑧ 保全技術の維持・向上 ⑨ 効率的な水銀対策手法の検討 ⑩ 不適物搬入の防止
	(4) 危機管理体制の強化	⑪ 災害時対応計画の策定 ⑫ 工場の緊急停止時対応計画の策定
2 効率的・効果的な 組合運営の推進	(5) 効率的な事務執行の推進	⑬ 情報処理システムの見直し ⑭ 契約制度の見直し ⑮ 組織体制の見直し
	(6) 啓発事業の見直し	⑯ リサイクルセンターのあり方の検討 ⑰ 工場見学の見直し
	(7) 効果的な人材育成の推進	⑱ 研修の充実 ⑲ 人事評価制度の運用及び活用の検討
3 市民理解及び構成市 との連携の推進	(8) 地元住民との関係強化	⑳ 周年事業の実施 ㉑ 地域協議会の設立
	(9) 情報発信の充実	㉒ 広報・見学資料等の充実 ㉓ 新たな情報発信の検討
	(10) 構成市との相互協力の推進	㉔ 工場連絡会の充実 ㉕ 合同研修の開催 ㉖ 構成市のイベントへの参加
4 次期処理施設に係る 検討	(11) 方針と資金の検討	㉗ 方針の決定 ㉘ 資金の検討
	(12) 技術の調査・研究	㉙ 情報収集と資料作成 ㉚ 調査・研究結果の共有

評価のねらいと考え方

評価にあたっての考え方は次のとおりである。

- ① 「取組項目」達成のための取り組みの柱として「取組内容」を定め、進行管理を行ってきたことから、「取組内容」の進捗状況を参考に、本計画の達成状況を総合的に評価した。
- ② 「取組内容」の進捗率・評価については、**計画中の5年間で、いかに目標達成に向けての取り組みを行ったか**を中心に、各年度末の進行管理によって進捗状況や次年度への課題・取り組みを明らかにしてきた。その結果としての進捗状況であるため、必ずしも目標達成＝完了とはなっていない。
- ③ 「取組内容」の進捗率・評価では、上記②のとおり、目標達成ができなくても一定の方向性をもって結論付けたものは完了としている。その場合、今後の課題を明らかにし、次期の「中期経営計画ビジョン」の参考とする。

評価の基準

「取組項目」ごとに、その配下にある「取組内容」の進捗状況を踏まえたうえで、令和4年度末時点における達成状況を改めて評価した。

評価の基準は次のとおりである。

評価	評 価 の 基 準
◎	ねらい以上の成果を得た。
○	ねらいどおりの成果を得た。
△	ねらいどおりではないが、一定の成果を得た。
×	成果が得られなかった。

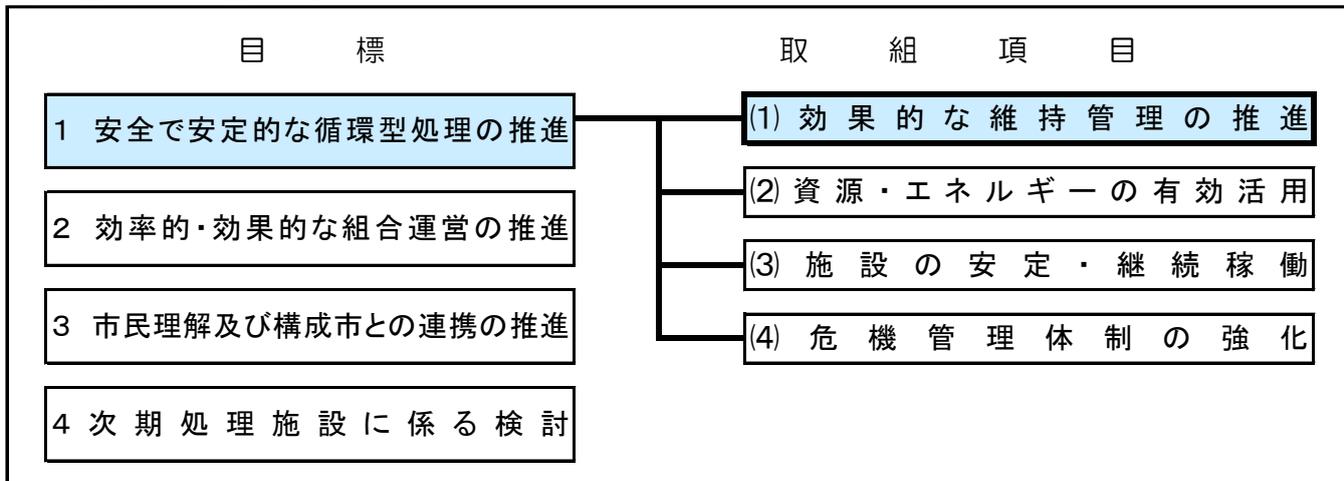
「取組項目」の評価

別添「多摩ニュータウン環境組合中期経営計画・ビジョン2022『取組項目』評価シート」のとおりとなった。また、参考資料として年度ごとの進捗状況を添付している。

多摩ニュータウン環境組合中期経営計画・ビジョン2022
「取組項目」評価シート

取組項目	1 効果的な維持管理の推進
------	---------------

【取組項目の位置づけ】



【取組項目の現状・課題】

平成28年度に施設の重要な設備や機器について延命化と省エネルギー化を目的とした基幹設備改良工事が終了した。今後は、平成44（2032）年度まで稼働できる維持管理が必要となるが、稼働から16～20年が経過しているため、焼却施設や不燃・粗大ごみ処理施設の劣化や老朽化等が目立ち始めている。

施設の耐用年数の半分が経過したことから、今後は、効率的な更新周期を検討しながら、性能向上や省エネ化等を考慮した積極的な更新も図る必要がある。また、新たに付加価値が得られる改造についても検討し、効果的な維持管理を推進していく必要がある。

【取組項目の評価】

※【 】は次の【取組内容】に同じ

評価	
○	<p>【①】長期修繕計画に基づき工事・修繕を実施し、確実な維持管理に努めた。前年度の工事報告書及び不具合箇所を精査し、当年度の機器補修工事に反映させた。また、機器の状況を把握し、更新年度の入替えを行い、工事費の平準化に努めた。機器の更新時は省エネ機器の導入を図り、特に令和2年度には省エネポンプの更新、令和3年度には省エネコンプレッサーの更新を行った。</p> <p>【②】新制御方法による消石灰の使用量削減と、活性炭による水銀の除去による薬品等の使用量削減により飛灰発生量を削減した。また、構成市の灰処理まで含めた費用対効果を検証し、構成市・東京たま広域資源循環組合と調整のうえ、令和3年度に飛灰搬出改造工事を実施し、飛灰搬出を開始した。</p>

【取組内容の状況】

取組内容	目標年度	進捗状況	評価	「ビジョン2027」との関連 (目標・取組項目・取組内容)
① 長期修繕計画の実施	4	令和4年度完了	○	1 (1) ①
② 飛灰の削減・搬出方法の検討	2	令和3年度完了	○	1 (2) ④

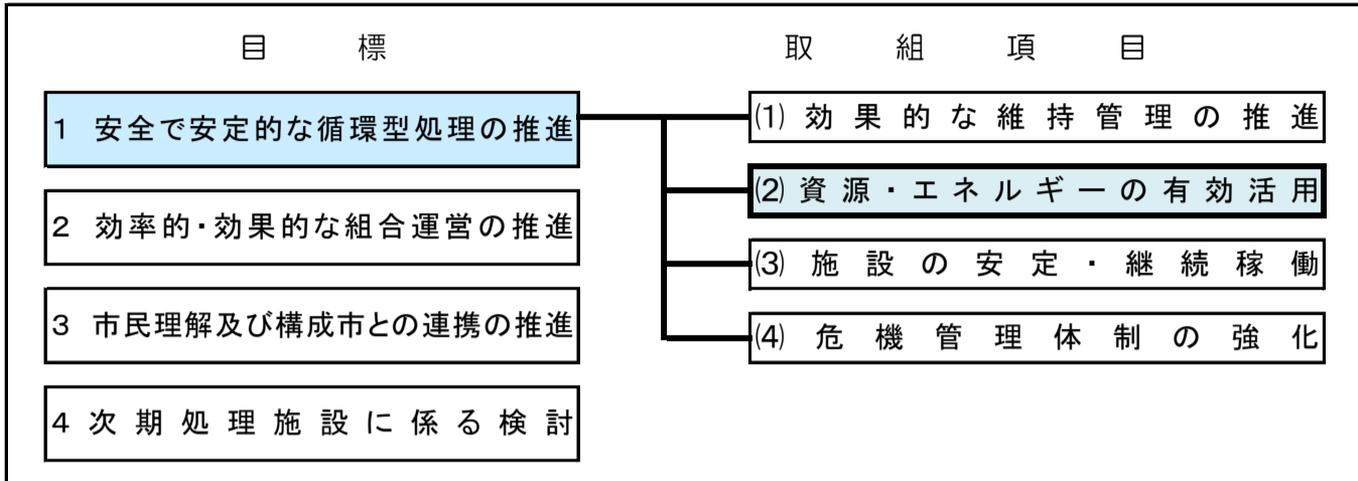
【今後の課題等と取り組みについて】

- ・設備の老朽化が進んでいるので、状況により随時見直しを行う。
- ・酸性ガスを処理する消石灰は多種多様な製品があるため、酸性ガス除去率・費用等の面から当工場に最適な製品を実機試験により選定する。排ガスに係る薬剤は、直接東京たま広域資源循環組合へ搬出する飛灰量となるため、最適な薬剤選定や運転方法を模索し改善を図る。

多摩ニュータウン環境組合中期経営計画・ビジョン2022
「取組項目」評価シート

取組項目	2 資源・エネルギーの有効活用
------	-----------------

【取組項目の位置づけ】



【取組項目の現状・課題】

平成28年度に基幹設備改良工事が終了し、使用電力量の削減と発電量の向上により、多大なエネルギー効果が得られた。また、今まで埋立て処理していた不燃残渣を資源化したほか、小型家電を破碎し付加価値を高めたことで、収入増と事業の継続を図ることができた。資源化する品目を新たに加えるなど、その充実を図ってきた。

今後、平成30年12月のFIT認定終了後の売電単価の引下げ等により売電収入の減少が見込まれるが、エネルギーを有効利用するため、構成市を含め広域的な清掃工場と連携し、売却方法を検討する必要がある。また、小型家電等の回収率向上や非鉄金属の回収を強化するため、費用対効果が得られる設備改修等について、積極的な検討が必要である。

【取組項目の評価】

※【 】は次の【取組内容】に同じ

評価	取組内容
◎	<p>【③】 焼却棟及び不燃・粗大ごみ処理棟の照明設備改修工事（LED化）と、空調機器更新工事を行った。この結果、平成30年度比で電力使用量を18%削減することができた。</p> <p>【④】 自己託送・地域委電力会社・小売り電気事業者を用いた接続供給の3種類の手法を調査した。令和3年度に多摩市と電力地産地消事業の取り組みを行うための協定を構成市と組合間で締結し、令和4年度に実施した。また、令和5年度に向けて構成3市と電力地産地消事業の取り組みを行うための準備を開始した。</p> <p>【⑤】 情報収集を行い、廃自転車・鉄屑等・小型家電等・二次電池類で資源化を促進した。</p> <p>【⑥】 平成30年度に費用対効果を検証し、令和元年に落じん灰搬送設備設置工事を実施し、売却を開始した。</p>

【取組内容の状況】

取組内容	目標年度	進捗状況	評価	「ビジョン2027」との関連 (目標・取組項目・取組内容)
③ 省エネルギー機器の導入	4	令和4年度完了	○	1 (4) ⑨
④ 電力地産地消の検討	4	令和4年度完了	◎	1 (4) ⑧
⑤ 資源化の促進	4	令和4年度完了	○	
⑥ 落じん灰回収の検討	3	令和元年度完了	◎	

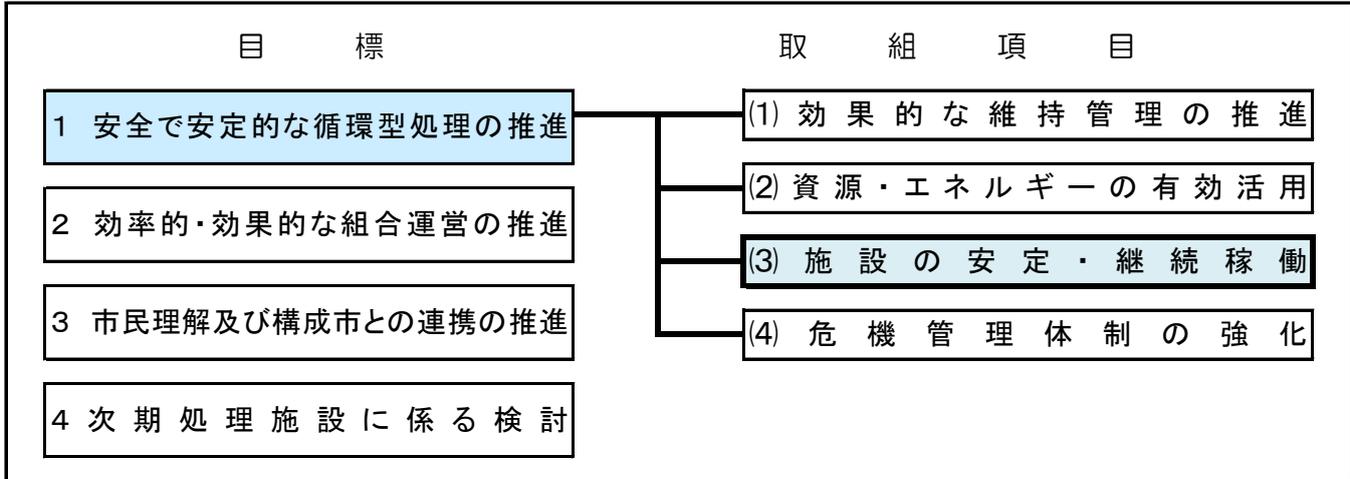
【今後の課題等と取り組みについて】

- ・次期処理施設における省エネルギー機器の導入検討と同時に、現施設の老朽化対応や運営年数を考慮した、コスト面においても良い効果となる取組みを検討する。
- ・季節や時間によって異なる電力単価の適応や、契約単価の急激な変動による構成市負担金の影響について検討する必要がある。 今後は構成三市と協力し、契約方法及び契約期間を検討する。
- ・コロナウイルス感染症やウクライナ情勢等により物資の相場が大幅に変化する可能性があるため、常に世界情勢や動向には目を光らせておくことが必要と考えられる。（状況によっては特に鉄屑等の価格は今後も大きく前後する可能性がある。）
- ・資源化された落じん灰中の貴金属含有量を把握する。実際の落じん灰売却量から、落じん灰搬送設備設置工事の費用が回収できているか検証する。粉じんの発生をより効果的に防止するため、継続的に検討し実施する。

多摩ニュータウン環境組合中期経営計画・ビジョン2022
「取組項目」評価シート

取組項目	3 施設の安定・継続稼働
------	--------------

【取組項目の位置づけ】



【取組項目の現状・課題】

構成市におけるごみの減量や資源化が進み、焼却炉の安定・継続稼働に必要なごみ量の確保が困難となっているが、焼却炉では、低負荷運転による効率的な継続運転を進めている。また、著しく工場の機能を損なうことがないごみ量を確保するために「ごみ処理区域の再編成」が必要であり、住民説明会の開催や広報等により理解を求めているところである。

一方で、不燃・粗大ごみ処理施設では、不適物除去の強化やきめ細かな資源化を実施し、効果をあげている。今後、更に減少が予想されるごみ量で、環境面に配慮した効果的な「安全で安定的なごみ処理方法」と「不適物除去の強化やきめ細かな資源化」の確立が必要である。また、「ごみ処理区域の再編成」を確実に進めることが必要である。

【取組項目の評価】

※【 】は次の【取組内容】に同じ

評価	
○	<p>【⑦】 構成市との調整、地元との意見交換、説明会の実施を経て令和2年度に規約改正、東京都へ許可申請を行った。令和3年度に「たまかんニュース」等で周知を図り、令和4年度から新たな処理区域での搬入を開始した。</p> <p>【⑧】 運転委託受託者と保全技術の維持向上検討会を実施し、運転委託受託者による補修範囲を拡大することができた。また、低負荷運転について情報共有し、施設の安定稼働を図った。</p> <p>【⑨】 令和2年度に活性炭を単独で吹込みをするための設備の改造工事を行った。令和3年度には、（公財）東京都環境科学研究所と実機試験により活性炭の評価を行い、効果的な活性炭の吹込み方法を決定し、処理費用の軽減と環境負荷の低減を図った。</p> <p>【⑩】 許可業者対象の説明会と内容物検査を実施し、不適物搬入の防止を図った。令和2・3年度は新型コロナウイルス感染防止のため、内容物検査は中止とし、説明会は書面開催とした。</p>

【取組内容の状況】

取組内容	目標年度	進捗状況	評価	「ビジョン2027」との関連 (目標・取組項目・取組内容)
⑦ ごみ処理区域の再編成	4	令和4年度完了	○	3 (9) ⑫
⑧ 保全技術の維持・向上	4	令和4年度完了	○	1 (2) ⑤
⑨ 効率的な水銀対策手法の検討	4	令和3年度完了	◎	1 (2) ④
⑩ 不適物搬入の防止	4	令和4年度完了	○	

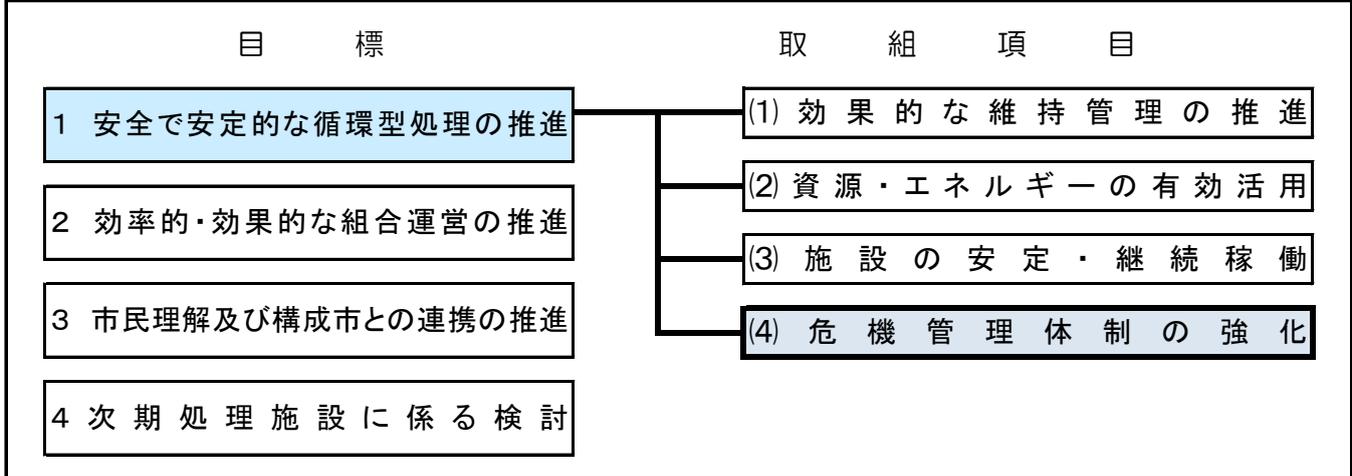
【今後の課題等と取り組みについて】

- 今回実施した「ごみ処理区域の再編成」のノウハウを活かして、ビジョン2027の取組内容に掲げる「広域化・集約化の検討」に繋げていく必要がある。
- 補修の技術向上と範囲の拡大に伴い、新しい溶接機など新たな作業用機器の購入と受託者への貸出を要求することがあり、組合としては保全の範囲と外部へ発注する内容との線引きを判断しなければならない。技術は向上しているが専門業者ではないことも考慮し、安全作業が保てる領域内で保全活動を展開していきたい。
- 新しく市場に出る水銀用活性炭の情報を常に収集し、費用対効果を考慮した製品選定を行う。
- 許可業者の意見も考慮して、お互いに協力することで搬出元から不適物の搬入がなくなるようにしていく。

多摩ニュータウン環境組合中期経営計画・ビジョン2022
「取組項目」評価シート

取組項目	4 危機管理体制の強化
------	-------------

【取組項目の位置づけ】



【取組項目の現状・課題】

構成市間におけるごみ処理応援体制の確立から14年が経過するなか、構成市からの受入れだけでなく、環境組合から構成市への応援依頼も実施し、構成市内でごみ処理が滞ることなく、相互に成熟した応援体制となってきた。
 今後は、大規模災害時や故障等により焼却炉が停止し構成市へ応援依頼する場合について、運搬体制を持たない多摩清掃工場が、量の多い可燃ごみをどのように運搬するのか等、具体的な役割・準備・体制を確立する必要がある。

【取組項目の評価】

※【 】は次の【取組内容】に同じ

評価	
○	<p>【⑪】 JEMA（環境衛生施設維持管理業務協会）が公開している事業継続計画を参考にして、多摩清掃工場の災害時に対応できる計画（素案）を作成し、工場運転受託者・構成市と調整を行った。有事の際に的確な行動ができる災害時対応計画を策定することができた。</p> <p>【⑫】 構成市と調整を行い、工場の緊急停止時対応計画を策定した。</p>

【取組内容の状況】

取組内容	目標年度	進捗状況	評価	「ビジョン2027」との関連 (目標・取組項目・取組内容)
⑪ 災害時対応計画の策定	2	令和元年度完了	○	
⑫ 工場の緊急停止時対応計画の策定	3	令和3年度完了	○	1 (3) ⑥

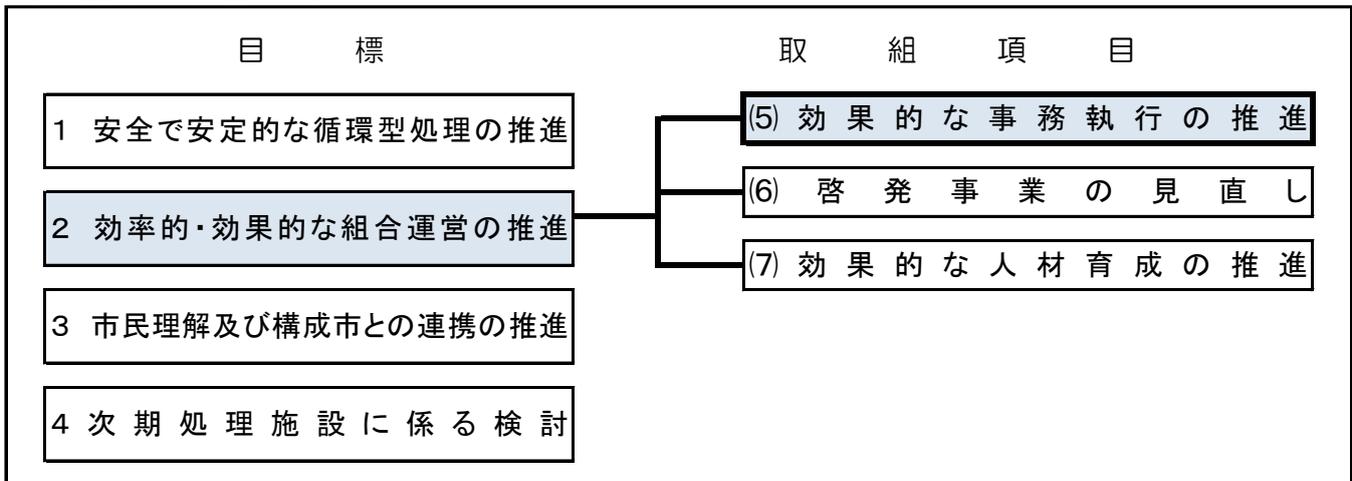
【今後の課題等と取り組みについて】

- ・災害時対応計画に関係する団体との連携を深め、災害時の自主規制運用値等について地元住民と協議する。計画倒れとならないように、マニュアルを実際にテストし継続的に改善できる計画とする。
- ・区域再編後の実際の搬入量や町田市追加搬入量（上限10,000 t/年）を考慮していないため、ビジョン2027で緊急停止時対応計画の更新を実施する。

多摩ニュータウン環境組合中期経営計画・ビジョン2022
「取組項目」評価シート

取組項目	5 効果的な事務執行の推進
------	---------------

【取組項目の位置づけ】



【取組項目の現状・課題】

業務システムの電子化については、財務会計システム・契約管理システム・給与システム等の整備が完了しており、各システムの更新時期にあわせて費用対効果の高いシステムへの移行を行っている。今後は、業務スケジュール管理について電子化を進める必要がある。
 契約制度については、競争性の確保及び事務の適正化を図るため、契約制度の見直しを行う必要がある。
 また、人員体制としては安定した管理期に入っているが、多摩清掃工場の施設老朽化への対応を進めていく上で、その状況に応じた組織体制の見直しが必要となる。

【取組項目の評価】

※【 】は次の【取組内容】に同じ

評価	<p>【13】 職員のスケジュール管理、公用車等施設の予約など、事務の効率化を図るため職員ポータルソフトウェアを導入した。</p> <p>【14】 競争入札参加資格審査登録事務・契約システムの仕様・契約事務担当者マニュアル・入札参加心得・郵送入札及び契約約款の見直しを行った。令和3年度には東京電子自治体共同運営協議会及び電子調達サービスへの加入手続きを実施した。令和4年度には電子入札に対応するため契約事務規則を改正と電子調達機器の導入を実施した。</p> <p>【15】 平成30年度に組織体制見直しワーキングを開催し、令和元年度から「計画担当課長」を設置することとした。ビジョン2022の中間見直しにおいて、次期処理施設の基本的な方針の検討に並行して検討することとされ、令和4年度には「多摩清掃工場施設老朽化対応の基本方針」を決定するなかで、人員の派遣についても大枠の方向性を示すことができた。</p>
----	--

【取組内容の状況】

取組内容	目標年度	進捗状況	評価	「ビジョン2027」との関連 (目標・取組項目・取組内容)
⑬ 情報処理システムの見直し	30	平成30年度完了	○	2 (6) ⑬
⑭ 契約制度の見直し	4	令和4年度完了	○	2 (6) ⑭
⑮ 組織体制の見直し	4	A	○	4 (10) ⑮

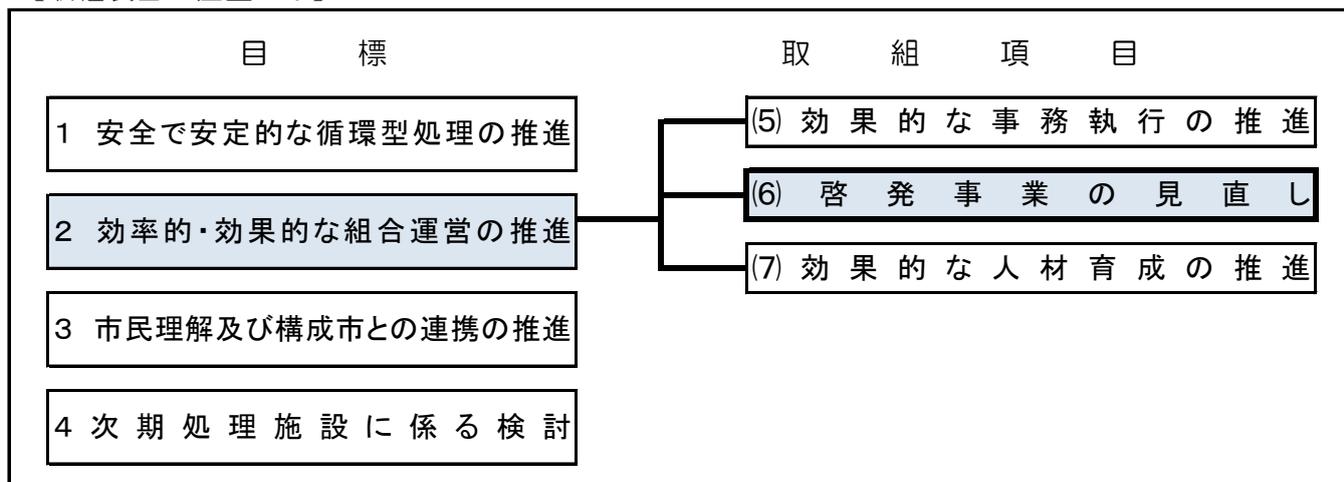
【今後の課題等と取り組みについて】

- ・新規派遣職員に対する操作研修の実施。更なる事務の効率化を図るための運用方法の検討。
- ・令和6年度年度当初契約から電子調達ができないと見込まれるため、令和4・5年度競争入札参加資格を延長または電子調達開始までの期間分の競争入札参加資格審査申請書を新規に提出依頼をするのか検討し、事業者へ周知する。
- ・「多摩清掃工場施設老朽化対応の基本方針」において令和5年度に建替時期が決まる予定となった為、人事計画の策定には至らなかった。次年度以降に方針に沿って人事計画を決定していく。

多摩ニュータウン環境組合中期経営計画・ビジョン2022
「取組項目」評価シート

取組項目	6 啓発事業の見直し
------	------------

【取組項目の位置づけ】



【取組項目の現状・課題】

啓発事業については、資源循環型社会の形成を目指し、資源の有効利用及びごみの減量化に関する活動の普及及び啓発等の推進を目的として、多摩ニュータウン環境組合リサイクルセンターを設置し、委託により事業を実施している。

リサイクルセンターは平成14年4月の事業開始から平成29年度で15年が経過し、ごみ減量・リサイクルの状況も変化してきていることから、啓発事業に対する環境組合としての時代に即した役割の見直しを検討する必要がある。また、開かれた多摩清掃工場として工場見学を実施しており、年間約2,500人の見学者を受入れている。平成20年度からは説明体制の充実を図るため、工場見学の委託化を行った。今後は、多様化するニーズに応えるため、工場見学の見直しを行う必要がある。

【取組項目の評価】

※【 】は次の【取組内容】に同じ

評価	取組内容
○	<p>【⑩】多摩市と調整を行い、他の啓発施設への視察等で事例収集を行ったうえで、委託内容を見直し啓発事業の活性化を図った。リサイクルセンターに搬入される高級家具等が無くなってきていることから、家具等再生事業を見直し、粗大ごみ等再利用事業とした。令和4年度には周年事業を行った。</p> <p>【⑰】他の清掃工場の見学対応について調査を行い、見学者が清掃工場の現場の雰囲気を一層感じることができるように見学ルートの一部変更を行った。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、見学の受入人数等の対応も併せて行った。見学の受付作業を効率化する観点から、施設見学受付簿及び見学集計表のExcelデータの書式変更を行った。</p>

【取組内容の状況】

取組内容	目標年度	進捗状況	評価	「ビジョン2027」との関連 (目標・取組項目・取組内容)
⑩ リサイクルセンターのあり方の検討	3	令和3年度完了	○	2 (7) ⑰
⑰ 工場見学の見直し	2	令和2年度完了	○	

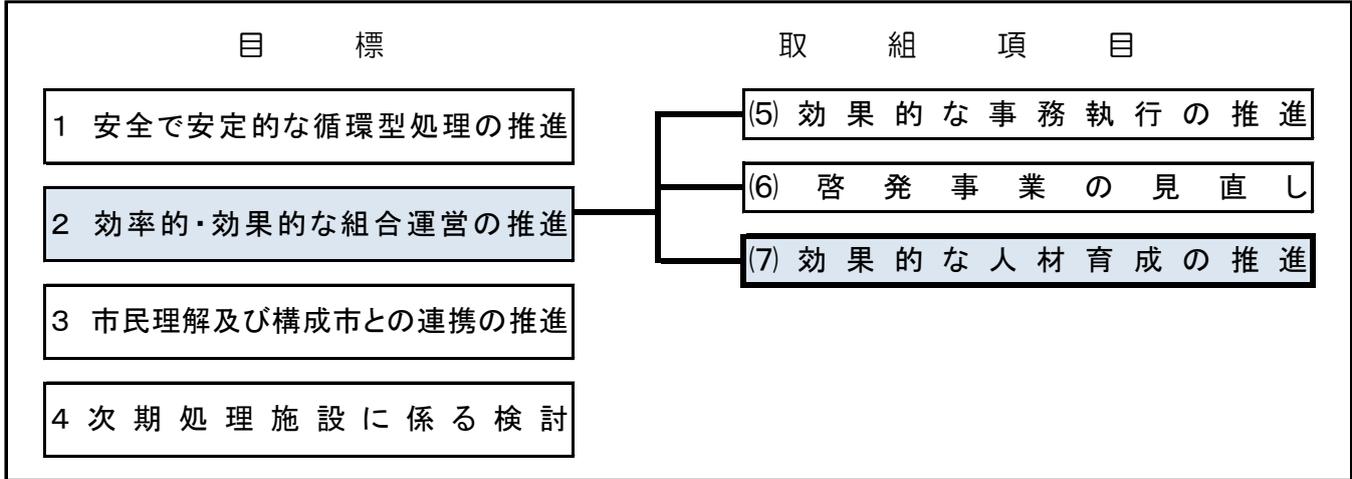
【今後の課題等と取り組みについて】

- 次期処理施設の際のリサイクルセンターの位置づけを再整理する必要がある。
- 見学に参加できない方でも、清掃工場の取組みを知ってもらえるよう、DVDの貸し出しやホームページの充実など、工場見学の改善を常に考える必要がある。

多摩ニュータウン環境組合中期経営計画・ビジョン2022
「取組項目」評価シート

取組項目	7 効果的な人材育成の推進
------	---------------

【取組項目の位置づけ】



【取組項目の現状・課題】

地域から信頼される組合運営を維持しながら、次期処理施設の検討に万全を期すためには、職員一人ひとりの能力、意欲、可能性を最大限に引き出し、清掃工場としての組織力を高める必要がある。

平成28年度に人材育成方針を策定し、職員の能力及び組織力の向上を図っており、人材育成の取組みの一つとして職員研修を実施しているが、より効果的な研修の展開、強化が課題となっている。

また、平成28年度から本格実施となった人事評価制度について、制度を有効なものとするためには職員が制度の趣旨を深く理解し、確実に実施していく必要がある。

【取組項目の評価】

※【 】は次の【取組内容】に同じ

評価	
○	<p>【⑩】研修実施計画を策定し、市町村職員研修所研修・専門研修・構成市が実施する研修へ参加した。また、多摩市と調整し、多摩市が実施するオンライン研修へ参加した。</p> <p>【⑨】新規派遣職員を対象に、人事評価制度の手引きを用いて、目的、スケジュール、評価結果の勤勉手当・昇任審査反映等を説明した。また、人事評価制度の周知及び理解を促進するため、人事評価制度研修（被評価者研修）を実施し評価基準の共有化を図った。</p>

【取組内容の状況】

取組内容	目標年度	進捗状況	評価	「ビジョン2027」との関連 (目標・取組項目・取組内容)
⑩ 研修の充実	4	令和4年度完了	○	2 (5) ⑩
⑨ 人事評価制度の運用及び活用の検討	4	令和4年度完了	○	

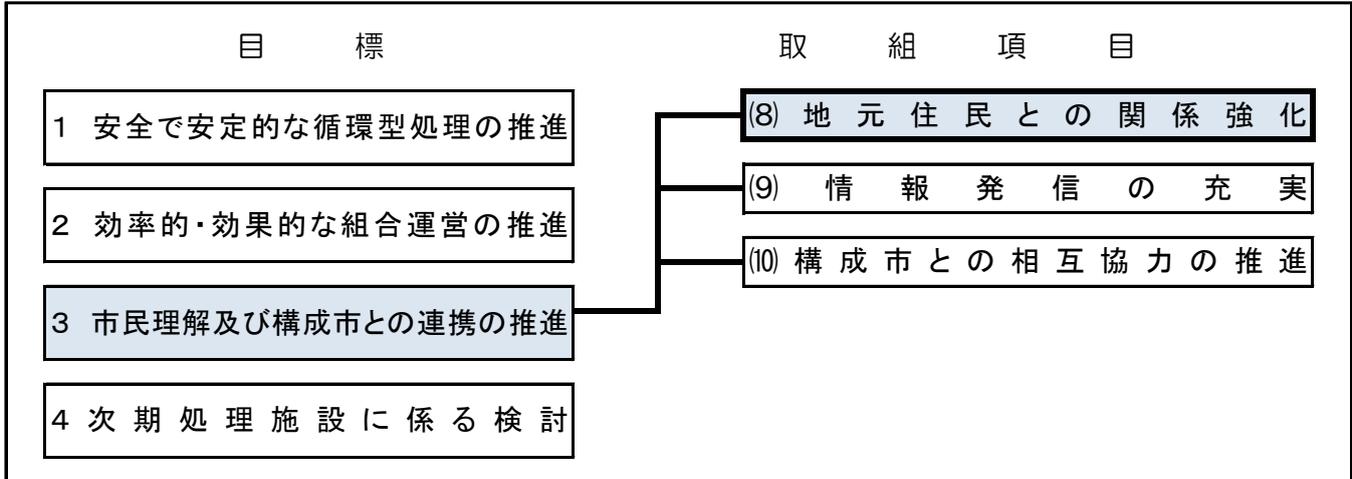
【今後の課題等と取り組みについて】

- ・ 予定している新規採用職員がそのキャリアのスタートとなるよう、研修を計画する。
- ・ 集団討論等の現地参加を要する研修と現地参加を要さないオンライン研修を組み合わせ効率的な計画をする。
- ・ 新規採用職員の正規雇用に向けて人事評価の実施や新規採用職員研修計画の策定を検討する。

多摩ニュータウン環境組合中期経営計画・ビジョン2022
「取組項目」評価シート

取組項目	8 地元住民との関係強化
------	--------------

【取組項目の位置づけ】



【取組項目の現状・課題】

清掃工場運営に対する地元理解を得るために、たまかんフェスタや唐木田クリーンアップ作戦などの地域交流事業を行っており、地域の行政機関やコミュニティの協力を得て地域の交流事業として定着している。また、1年間の活動報告を行う地元報告会や工場運営に関する説明会の開催、工場周辺へ配布する「たまかんニュース地域版」の発行など、積極的な情報提供による信頼獲得に努めており、地元からは一定の評価を得ている。

今後も地域交流事業、情報提供など継続的に取組んでいくが、実施にあたっては、今まで以上に清掃工場への関心を高め、理解を深めていただく工夫が必要となる。また、次期処理施設の検討に向けて地元住民の方々との情報共有、意見交換ができる場の構築も必要であり、環境組合から積極的な働きかけを行い更なる関係を築く必要がある。

【取組項目の評価】

※【 】は次の【取組内容】に同じ

評価	
○	<p>【20】平成30年度に、多摩ニュータウン環境組合設立25周年記念事業として地元自治会役員を招待し、正副管理者、組合議員と共に、たまかんフェスタ開催に合わせて25周年記念式典を実施した。また、組合広報担当特別スタッフ『タマちゃん』の着ぐるみを作成した。</p> <p>【21】地元自治会等との情報交換会や出前報告会、地元自治会等対象清掃施設見学会を開催し、地元との調整を進め、令和3年度に地元協議会を設立した。令和3年8月28日(土)に第一回地元協議会を開催した。</p>

【取組内容の状況】

取組内容	目標年度	進捗状況	評価	「ビジョン2027」との関連 (目標・取組項目・取組内容)
20 周年事業の実施	元	令和元年度完了	○	3 (8) ⑰
21 地域協議会の設立	3	令和3年度完了	○	3 (8) ⑱

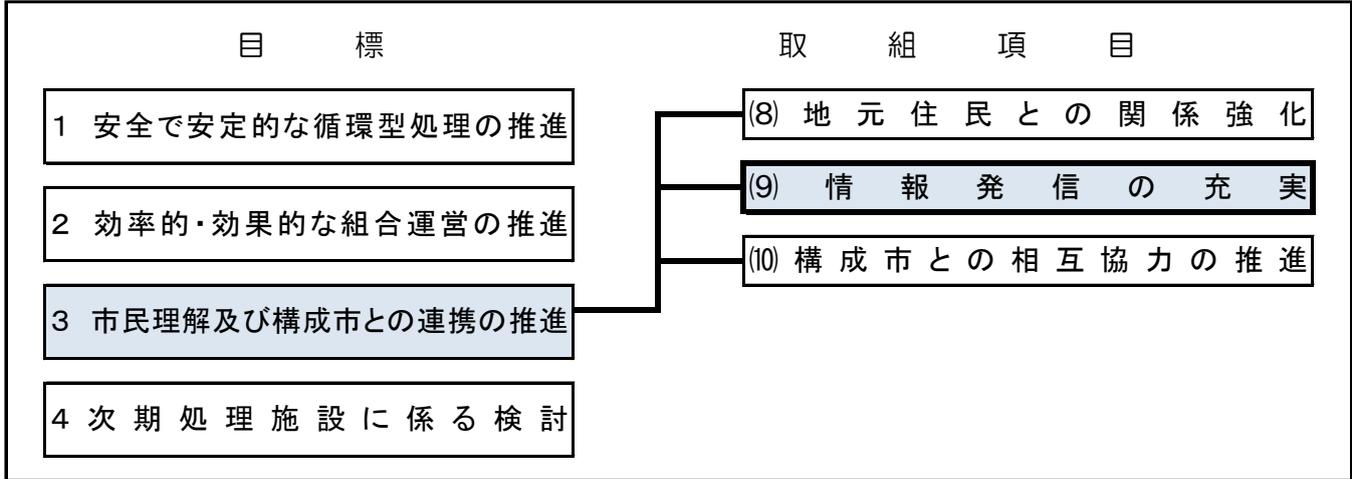
【今後の課題等と取り組みについて】

- PRの促進は継続事業として、機会があるごとに進めていくこととする。
- 地元協議会を、地元住民にとって信頼に足る協議会として確立・運営していくことが課題となる。
- 地元協議会の中で地元住民と積極的に意見交換・連絡調整を行い、継続的で良好な信頼関係構築に取り組む。

多摩ニュータウン環境組合中期経営計画・ビジョン2022
「取組項目」評価シート

取組項目	9 情報発信の充実
------	-----------

【取組項目の位置づけ】



【取組項目の現状・課題】

清掃工場を運営するにあたり、運転状況等について市民や構成市へ情報提供を行う必要がある。現在、広報紙として処理区域の約11万世帯に向けて年2回「たまかんニュース」を発行するとともに、地元住民に対して「たまかんニュース地域版」を戸別配付している。また、ホームページについては、利用しやすさを考慮したデザインへの改修を行うなど、情報提供に努めている。

組合の事業を展開するためには市民の理解が必要不可欠である。情報発信にあたっては、わかりやすさを向上させ、市民の理解を促進するための工夫が必要である。

【取組項目の評価】

※【 】は次の【取組内容】に同じ

評価	
◎	<p>【⑫】編集会議で検討し、たまかんニュース平成30年7月発行の第30号から、紙面のカラー化を行った。また、工場見学者向けに、見学者用DVDの作成、見学用パネルの作成・設置、組合キャラクターの見学用サインの設置、デジタルサイネージの設置、見学コースのタマちゃんの足跡の不燃・粗大ごみ処理棟への延伸、環境測定結果の掲示場所の変更、子ども用見学パンフレットの作成を行い、見学時の分かりやすさを図った。</p> <p>【⑬】令和元年度からタマちゃんLINEスタンプを販売開始。たまかんニュース、たまかんフェスタ、構成市広報・イベント等で周知活動を行った。</p>

【取組内容の状況】

取組内容	目標年度	進捗状況	評価	「ビジョン2027」との関連 (目標・取組項目・取組内容)
⑫ 広報・見学資料等の充実	4	令和4年度完了	◎	2 (7) ⑫
⑬ 新たな情報発信の検討	2	令和元年度完了	○	2 (7) ⑫

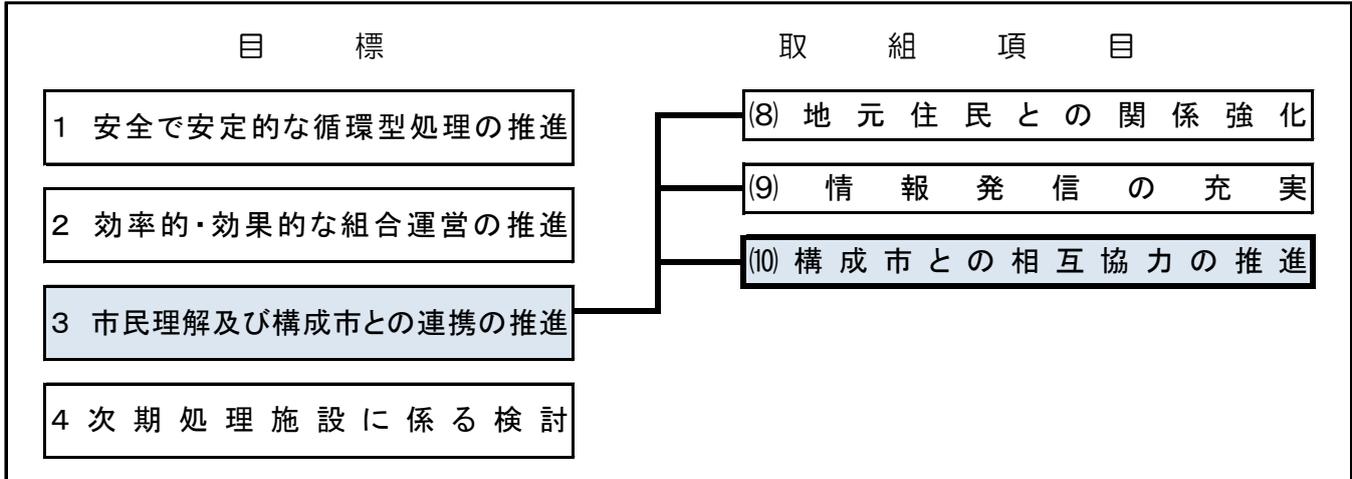
【今後の課題等と取り組みについて】

- リサイクルセンターへパンフレット作成の業務委託は初めてのため、仕様書作成などを確実に進行。また、契約時期についても令和5年度早期に行う必要がある。
- LINEスタンプの販売を継続し、認知度の拡大を目指す。LINE公式アカウントの取得、LINEスタンプ販売の継続については今後の取組結果に基づいて判断する。

多摩ニュータウン環境組合中期経営計画・ビジョン2022
「取組項目」評価シート

取組項目	10 構成市との相互協力の推進
------	-----------------

【取組項目の位置づけ】



【取組項目の現状・課題】

構成市及び組合の部課長で構成される兼任職員会では、議会へ上程する議案の調整や構成市間の連絡調整を図っている。その他に、清掃工場の情報共有や意見交換のため、担当者による工場連絡会を開催している。
 今後はごみ処理区域の再編成や次期処理施設の検討に向け、更なる協力体制を築く必要がある。

【取組項目の評価】

※【 】は次の【取組内容】に同じ

評価	<p>【24】構成市と連携し工場連絡会を開催した。令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染防止のため、書面開催とするなど開催方法を工夫した。</p> <p>【25】構成市と合同で研修を開催した。令和3年度には公益社団法人全国市有物件災害共済会による火災事故防止対策研修会を実施し、令和4年度には日立造船(株)による技術講習会を実施した。</p> <p>【26】新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったイベントもあったが、構成市のイベント(あったかホールまつり・エコフェスタ多摩・町田エコフェスタ)に参加し、タマちゃんのグリーティングを行うなど、環境組合についての理解促進を図った。</p>
○	

【取組内容の状況】

取組内容	目標年度	進捗状況	評価	「ビジョン2027」との関連 (目標・取組項目・取組内容)
24 工場連絡会の充実	4	令和4年度完了	○	3 (9) 21
25 合同研修の開催	4	令和4年度完了	○	
26 構成市のイベントへの参加	4	令和4年度完了	○	3 (9) 20

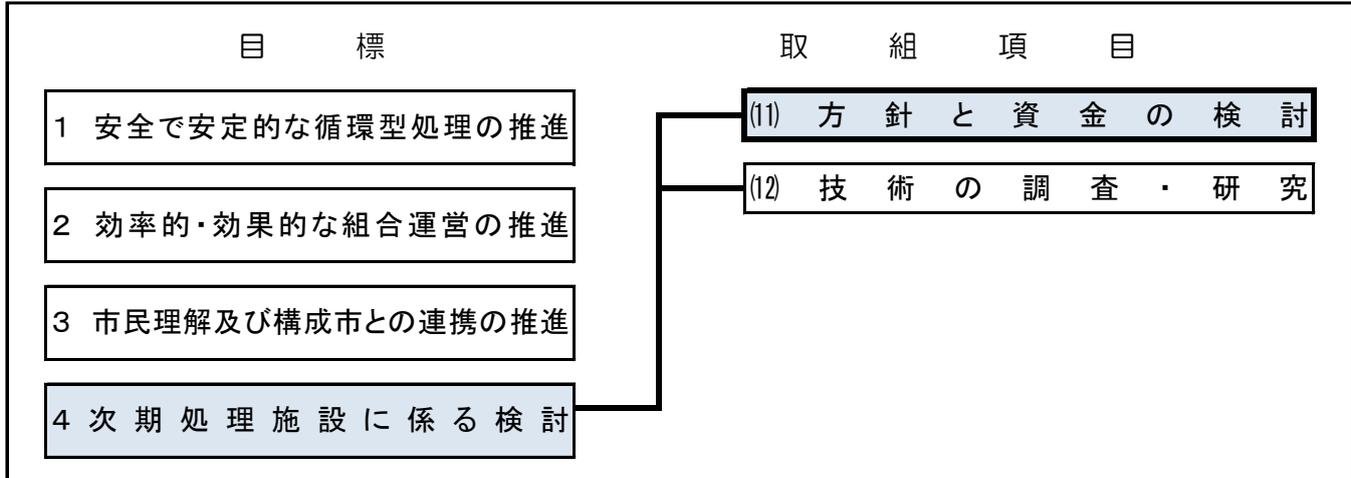
【今後の課題等と取り組みについて】

- ・清掃工場の議題だけでなく、構成市のごみ行政全般に対する問題点についても取り組みたい。
- ・継続的に構成市のイベントに参加し、構成市との相互協力体制の強化と、住民からの環境組合の理解促進を図る。

多摩ニュータウン環境組合中期経営計画・ビジョン2022
「取組項目」評価シート

取組項目	11 方針と資金の検討
------	-------------

【取組項目の位置づけ】



【取組項目の現状・課題】

現焼却施設は、竣工から35年目となる令和14（2032）年度までの稼働を予定している。構成市である町田市清掃工場は、令和3（2021）年度中の竣工を目指して建替え工事中であり、八王子市の館清掃工場は令和4（2022）年度竣工を目指して建替え準備が進行している。

次期処理施設の検討を含む多摩清掃工場の施設老朽化への対応について、令和14（2032）年度の10年前である令和4（2022）年度には、基本的な方針を策定しておくことが望ましい。また、対応にかかる資金については、基本的な方針の検討の中で、あわせて検討を進めていく。

このため、令和4年度（2022）年度中には多摩清掃工場の施設老朽化への対応についての基本的な方針について、地域住民の皆様との意見交換等も行いながら策定し、方向性を決定していくことが課題である。

【取組項目の評価】

※【 】は次の【取組内容】に同じ

評価	<p>【27】構成市と調整のうえ、令和3年度にコンサルティング会社に委託し「『（仮称）多摩清掃工場のあり方に関する基本的な方針』策定支援業務委託報告書」を作成し、施設老朽化への対応についてLCC比較を行った。令和4年度には「多摩清掃工場施設老朽化対応の基本方針」を策定した。</p> <p>【28】令和4年11月1日付で決定した『多摩清掃工場施設老朽化対応の基本方針』に基づき、次期処理施設に係る建設費等について長期的な経費の見直しを作成し構成市に報告した。また、建設費用平準化の対応は、組合で新たな基金の設置等はせず構成市が行うことで決定した。</p>
----	---

【取組内容の状況】

取組内容	目標年度	進捗状況	評価	「ビジョン2027」との関連 (目標・取組項目・取組内容)
27 方針の決定	4	令和4年度完了	○	4 (10) 23
28 資金の検討	4	令和4年度完了	○	4 (10) 23

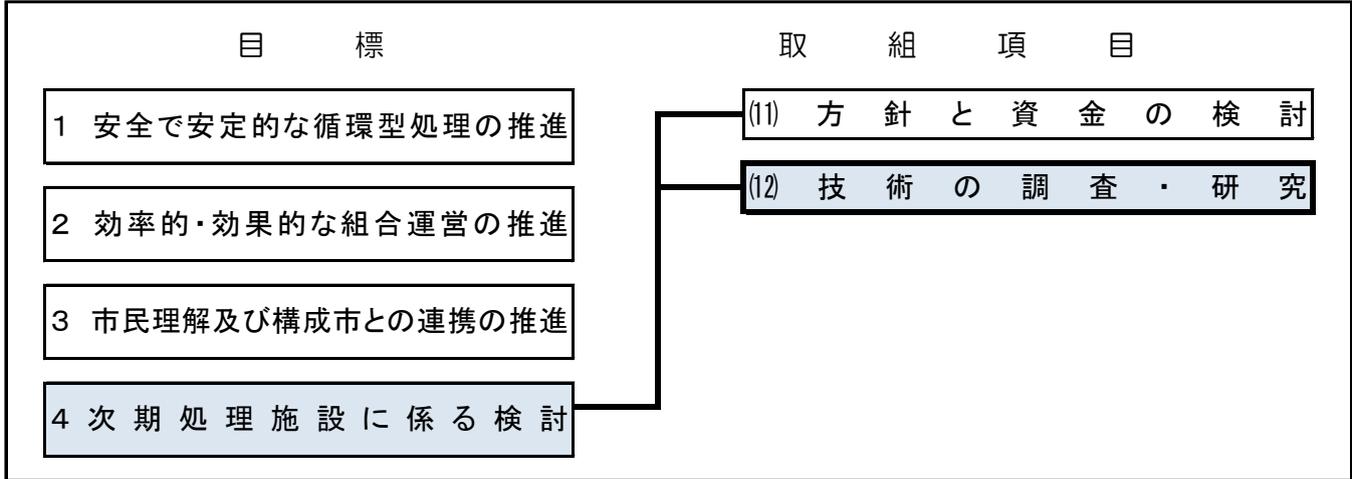
【今後の課題等と取り組みについて】

- ・構成市や地元住民と調整を続け、決定した方針のとおり、適切な時期に建替えが実現できるよう準備に取り組む。
- ・東京都が示すごみ処理施設の広域化・集約化に関する方針及び関連補助金や、構成市の基本計画を考慮して、スケジュールの見直しを随時実施する。
- ・現在作成の長期的な経費見直し（令和5年2月作成）は、今後、物価上昇や国の動向等の影響により変動する可能性があることから、都度、精度の高い情報に更新し、構成市に報告を行う。

多摩ニュータウン環境組合中期経営計画・ビジョン2022
「取組項目」評価シート

取組項目	12 技術の調査・研究
------	-------------

【取組項目の位置づけ】



【取組項目の現状・課題】

次期処理施設の処理方法等について、現在は検討を行う段階ではないため技術調査に組織として取り組んではないが、本格的に検討を行う前にごみ処理技術の調査・研究を行い、最新の技術・動向を蓄積する必要がある。

【取組項目の評価】

※【 】は次の【取組内容】に同じ

評価	
○	<p>【29】最新設備及び最新技術の情報収集、資料作成を行った。</p> <p>【30】最新施設及び最新技術の講習会を開催した。構成市にも参加を募り、情報共有を図った。新型コロナウイルス感染症の影響で講習会を中止した際も、講習会用の資料を配布し情報共有を図った。</p>

【取組内容の状況】

取組内容	目標年度	進捗状況	評価	「ビジョン2027」との関連 (目標・取組項目・取組内容)
②9 情報収集と資料作成	4	令和4年度完了	○	
③0 調査・研究結果の共有	4	令和4年度完了	○	

【今後の課題等と取り組みについて】

・継続的に、最新施設・最新技術の情報収集を行い、情報の蓄積・情報共有を行う。

参 考 資 料

『年度ごとの進捗状況』

平成30年度 多摩ニュータウン環境組合中期経営計画ビジョン2022について

平成30年度は、『多摩ニュータウン環境組合中期経営計画「ビジョン2022」』（計画期間：平成30年度（2018年度）～令和4年度（2022年度））の始動の年にあたり、その達成に向けて、確実に取り組むとともに、効率的かつ効果的で、安定した工場運営を維持できるよう事務事業を展開しました。

「ビジョン2022」では、当組合の経営方針である「環境にやさしい安全で開かれた多摩清掃工場」の実現のため、4つの目標として、

- 1 安全で安定的な循環型処理の推進
- 2 効率的・効果的な組合運営の推進
- 3 市民理解及び構成市との連携の推進
- 4 次期処理施設に係る検討

を掲げ、目標達成のための12の具体的な取組項目を設定・体系化し、予算・人材を計画的かつ効果的に活用しながら、多岐にわたる対応すべき課題の解決を目指すもので、令和14年度（2032年度）まで運転稼働が可能となった当工場を安定稼働させていくための取組みや次期処理施設に係る検討も含めた計画としています。

① 平成30年度の進捗状況

経営方針	目標	取組項目	取組内容	進捗状況
環境にやさしい安全で開かれた多摩清掃工場	1 安全で安定的な循環型処理の推進	(1) 効果的な維持管理の推進	① 長期修繕計画の実施	A
			② 飛灰の削減・搬出方法の検討	A
		(2) 資源・エネルギーの有効活用	③ 省エネルギー機器の導入	A
			④ 電力地産地消の検討	B
			⑤ 資源化の促進	A
			⑥ 落じん灰回収の検討	S
		(3) 施設の安定・継続稼働	⑦ ごみ処理区域の再編成	A
			⑧ 保全技術の維持・向上	A
			⑨ 効率的な水銀対策手法の検討	A
			⑩ 不適物搬入の防止	A
		(4) 危機管理体制の強化	⑪ 災害時対応計画の策定	A
			⑫ 工場の緊急停止時対応計画の策定	A
	2 効率的・効果的な組合運営の推進	(5) 効率的な事務執行の推進	⑬ 情報処理システムの見直し	完
			⑭ 契約制度の見直し	A
		(6) 啓発事業の見直し	⑮ 組織体制の見直し	A
			⑯ リサイクルセンターのあり方の検討	A
			⑰ 工場見学の見直し	A
		(7) 効果的な人材育成の推進	⑱ 研修の充実	A
			⑲ 人事評価制度の運用及び活用の検討	A
	3 市民理解及び構成市との連携の推進	(8) 地元住民との関係強化	⑳ 周年事業の実施	完
			㉑ 地域協議会の設立	B
		(9) 情報発信の充実	㉒ 広報・見学資料等の充実	A
			㉓ 新たな情報発信の検討	A
		(10) 構成市との相互協力の推進	㉔ 工場連絡会の充実	A
			㉕ 合同研修の開催	A
	4 次期処理施設に係る検討	(11) 方針と資金の検討	㉖ 構成市のイベントへの参加	A
			㉗ 方針の決定	B
		(12) 技術の調査・研究	㉘ 資金の検討	B
			㉙ 情報収集と資料作成	A
			㉚ 調査・研究結果の共有	A

進捗状況

完:完了

S:計画以上に進捗している

A:計画どおりに進捗している

B:進捗が遅れている

C:進捗なし

② 「ビジョン2022」の進捗状況について

30個ある取組内容のうち、グループウェアを導入した「情報処理システムの見直し」や25周年事業を実施した「周年事業の実施」の取組みの2項目が完了しました。

また、焼却施設から発生する落じん灰を回収し売却する「落じん灰回収の検討」については予定より早く資源化の目的が立ち売却契約に至り計画以上の進捗を得られました。

それ以外の項目についても継続的に取組みを進めていきます。

令和元年度 多摩ニュータウン環境組合中期経営計画ビジョン2022について

令和元年度は、『多摩ニュータウン環境組合中期経営計画「ビジョン2022」』（計画期間：平成30年度（2018年度）～令和4年度（2022年度））の2年目にあたり、その達成に向けて、確実に取り組むとともに、効率的かつ効果的で、安定した工場運営を維持できるよう事務事業を展開しました。

「ビジョン2022」では、当組合の経営方針である「環境にやさしい安全で開かれた多摩清掃工場」の実現のため、4つの目標として、

- 1 安全で安定的な循環型処理の推進
- 2 効率的・効果的な組合運営の推進
- 3 市民理解及び構成市との連携の推進
- 4 次期処理施設に係る検討

を掲げ、目標達成のための12の具体的な取組項目を設定・体系化し、予算・人材を計画的かつ効果的に活用しながら、多岐にわたる対応すべき課題の解決を目指すもので、令和14年度（2032年度）まで運転稼働が可能となった当工場を安定稼働させていくための取組みや次期処理施設に係る検討も含めた計画としています。

令和元年度の進捗状況

経営方針	目標	取組項目	取組内容	進捗状況
環境にやさしい安全で開かれた多摩清掃工場	1 安全で安定的な循環型処理の推進	(1) 効果的な維持管理の推進	① 長期修繕計画の実施	A
			② 飛灰の削減・搬出方法の検討	A
		(2) 資源・エネルギーの有効活用	③ 省エネルギー機器の導入	A
			④ 電力地産地消の検討	A
			⑤ 資源化の促進	A
			⑥ 落じん灰回収の検討	完
		(3) 施設の安定・継続稼働	⑦ ごみ処理区域の再編成	A
			⑧ 保全技術の維持・向上	A
			⑨ 効率的な水銀対策手法の検討	A
			⑩ 不適物搬入の防止	B
		(4) 危機管理体制の強化	⑪ 災害時対応計画の策定	完
			⑫ 工場の緊急停止時対応計画の策定	A
	2 効率的・効果的な組合運営の推進	(5) 効率的な事務執行の推進	⑬ 情報処理システムの見直し	30完
			⑭ 契約制度の見直し	A
			⑮ 組織体制の見直し	B
		(6) 啓発事業の見直し	⑯ リサイクルセンターのあり方の検討	A
			⑰ 工場見学の見直し	B
		(7) 効果的な人材育成の推進	⑱ 研修の充実	A
	3 市民理解及び構成市との連携の推進	(8) 地元住民との関係強化	⑲ 人事評価制度の運用及び活用の検討	A
			⑳ 周年事業の実施	30完
		(9) 情報発信の充実	㉑ 地域協議会の設立	B
			㉒ 広報・見学資料等の充実	A
		(10) 構成市との相互協力の推進	㉓ 新たな情報発信の検討	完
			㉔ 工場連絡会の充実	A
	4 次期処理施設に係る検討	(11) 方針と資金の検討	㉕ 合同研修の開催	B
			㉖ 構成市のイベントへの参加	A
		(12) 技術の調査・研究	㉗ 方針の決定	A
			㉘ 資金の検討	C
			㉙ 情報収集と資料作成	A
			㉚ 調査・研究結果の共有	B

進捗状況

30完：平成30年度に完了
 完：本年度（令和元年度）完了
 S：計画以上に進捗している
 A：計画どおりに進捗している
 B：進捗が遅れている
 C：進捗なし

「ビジョン2022」の進捗状況について

30個ある取組内容のうち、平成30年度に2項目が完了し、令和元年度は新たに「落じん灰回収の検討」、「災害時対応計画の策定」、「新たな情報発信の検討」の3項目が完了しました。

それ以外の項目についても継続的に取組みを進めていきます。

また、令和2年度には中間見直しを実施する予定です。

令和2年度 多摩ニュータウン環境組合中期経営計画ビジョン2022について

令和2年度は、『多摩ニュータウン環境組合中期経営計画「ビジョン2022」』（計画期間：平成30年度（2018年度）～令和4年度（2022年度））の3年目にあたり、その達成に向けて、確実に取り組むとともに、効率的かつ効果的で、安定した工場運営を維持できるよう事務事業を展開しました。

「ビジョン2022」では、当組合の経営方針である「環境にやさしい安全で開かれた多摩清掃工場」の実現のため、4つの目標として、

- 1 安全で安定的な循環型処理の推進
- 2 効率的・効果的な組合運営の推進
- 3 市民理解及び構成市との連携の推進
- 4 次期処理施設に係る検討

を掲げ、目標達成のための12の具体的な取組項目を設定・体系化し、予算・人材を計画的かつ効果的に活用しながら、多岐にわたる対応すべき課題の解決を目指すもので、令和14年度（2032年度）まで運転稼働が可能となった当工場を安定稼働させていくための取組みや次期処理施設に係る検討も含めた計画としています。

令和2年度の進捗状況

経営方針	目標	取組項目	取組内容	進捗状況
環境にやさしい安全で開かれた多摩清掃工場	1 安全で安定的な循環型処理の推進	(1) 効果的な維持管理の推進	① 長期修繕計画の実施	A
			② 飛灰の削減・搬出方法の検討	A
		(2) 資源・エネルギーの有効活用	③ 省エネルギー機器の導入	A
			④ 電力地産地消の検討	A
			⑤ 資源化の促進	A
			⑥ 落じん灰回収の検討	元完
		(3) 施設の安定・継続稼働	⑦ ごみ処理区域の再編成	A
			⑧ 保全技術の維持・向上	A
			⑨ 効率的な水銀対策手法の検討	S
			⑩ 不適物搬入の防止	A
		(4) 危機管理体制の強化	⑪ 災害時対応計画の策定	元完
			⑫ 工場の緊急停止時対応計画の策定	A
	2 効率的・効果的な組合運営の推進	(5) 効率的な事務執行の推進	⑬ 情報処理システムの見直し	30完
			⑭ 契約制度の見直し	A
			⑮ 組織体制の見直し	C
		(6) 啓発事業の見直し	⑯ リサイクルセンターのあり方の検討	A
			⑰ 工場見学の見直し	完
		(7) 効果的な人材育成の推進	⑱ 研修の充実	A
			⑲ 人事評価制度の運用及び活用の検討	A
	3 市民理解及び構成市との連携の推進	(8) 地元住民との関係強化	⑳ 周年事業の実施	30完
			㉑ 地域協議会の設立	A
		(9) 情報発信の充実	㉒ 広報・見学資料等の充実	A
			㉓ 新たな情報発信の検討	元完
		(10) 構成市との相互協力の推進	㉔ 工場連絡会の充実	A
			㉕ 合同研修の開催	A
	4 次期処理施設に係る検討	(11) 方針と資金の検討	㉖ 構成市のイベントへの参加	A
			㉗ 方針の決定	A
		(12) 技術の調査・研究	㉘ 資金の検討	C
			㉙ 情報収集と資料作成	A
			㉚ 調査・研究結果の共有	A

<進捗状況>

30完：平成30年度に完了

元完：令和元年度に完了

完：完了

S：計画以上に進捗している

A：計画どおりに進捗している

B：進捗が遅れている

C：進捗なし

○「ビジョン2022」の中間見直しについて

次期処理施設に係る取組内容について、計画策定当時と現状の取組内容が乖離していることから、「⑮組織体制の見直し」、「㉗方針の決定」、「㉘資金の検討」の取組内容を見直し、「⑮組織体制の見直し」、「㉘資金の検討」は、「㉗方針の決定」と併せて行うこととしました。

○「ビジョン2022」の進捗状況について

30個ある取組内容のうち、平成30年度に2項目、令和元年度に3項目が完了し、令和2年度は新たに「⑰工場見学の見直し」の1項目が完了しました。

中間見直しに伴い「⑮組織体制の見直し」、「㉘資金の検討」については「㉗方針の決定」の今年度の取組みの中では動きがなかったことから「C」評価としました。

それ以外の項目についても継続的に取組みを進めていきます。

令和3年度 多摩ニュータウン環境組合中期経営計画ビジョン2022について

令和3年度は、『多摩ニュータウン環境組合中期経営計画「ビジョン2022」』（計画期間：平成30年度（2018年度）～令和4年度（2022年度））の4年目にあたり、その達成に向けて、確実に取り組むとともに、効率的かつ効果的で、安定した工場運営を維持できるような事務事業を展開しました。

「ビジョン2022」では、当組合の経営方針である「環境にやさしい安全で開かれた多摩清掃工場」の実現のため、4つの目標として、

- 1 安全で安定的な循環型処理の推進
- 2 効率的・効果的な組合運営の推進
- 3 市民理解及び構成市との連携の推進
- 4 次期処理施設に係る検討

を掲げ、目標達成のための12の具体的な取組項目を設定・体系化し、予算・人材を計画的かつ効果的に活用しながら、多岐にわたる対応すべき課題の解決を目指すもので、令和14年度（2032年度）まで運転稼働が可能となった当工場を安定稼働させていくための取組みや次期処理施設に係る検討も含めた計画としています。

令和3年度の進捗状況

経営方針	目標	取組項目	取組内容	進捗状況
環境にやさしい安全で開かれた多摩清掃工場	1 安全で安定的な循環型処理の推進	(1) 効果的な維持管理の推進	① 長期修繕計画の実施	A
			② 飛灰の削減・搬出方法の検討	3完
		(2) 資源・エネルギーの有効活用	③ 省エネルギー機器の導入	A
			④ 電力地産地消の検討	S
			⑤ 資源化の促進	A
			⑥ 落じん灰回収の検討	元完
		(3) 施設の安定・継続稼働	⑦ ごみ処理区域の再編成	A
			⑧ 保全技術の維持・向上	A
			⑨ 効率的な水銀対策手法の検討	3完
			⑩ 不適物搬入の防止	A
		(4) 危機管理体制の強化	⑪ 災害時対応計画の策定	元完
			⑫ 工場の緊急停止時対応計画の策定	3完
	2 効率的・効果的な組合運営の推進	(5) 効率的な事務執行の推進	⑬ 情報処理システムの見直し	30完
			⑭ 契約制度の見直し	A
			⑮ 組織体制の見直し	C
		(6) 啓発事業の見直し	⑯ リサイクルセンターのあり方の検討	3完
			⑰ 工場見学の見直し	2完
		(7) 効果的な人材育成の推進	⑱ 研修の充実	A
			⑲ 人事評価制度の運用及び活用の検討	A
	3 市民理解及び構成市との連携の推進	(8) 地元住民との関係強化	⑳ 周年事業の実施	30完
			㉑ 地域協議会の設立	3完
		(9) 情報発信の充実	㉒ 広報・見学資料等の充実	S
			㉓ 新たな情報発信の検討	元完
		(10) 構成市との相互協力の推進	㉔ 工場連絡会の充実	A
			㉕ 合同研修の開催	A
	4 次期処理施設に係る検討	(11) 方針と資金の検討	㉖ 構成市のイベントへの参加	A
			㉗ 方針の決定	A
		(12) 技術の調査・研究	㉘ 資金の検討	B
			㉙ 情報収集と資料作成	A
			㉚ 調査・研究結果の共有	A

<進捗状況>

30完：平成30年度に完了

元完：令和元年度に完了

2完：令和2年度に完了

3完：令和3年度に完了

S：計画以上に進捗している

A：計画どおりに進捗している

B：進捗が遅れている

C：進捗なし

○「ビジョン2022」の進捗状況について

30個ある取組内容のうち、平成30年度に2項目、令和元年度に3項目、令和2年度は1項目が完了し、令和3年度は新たに「②飛灰の削減・搬出方法の検討」、「⑨効率的な水銀対策手法の検討」、「⑫工場の緊急停止時対応計画の策定」、「⑯リサイクルセンターのあり方の検討」、「㉑地域協議会の設立」の5項目が完了しました。

「⑮組織体制の見直し」については令和2年度に行った計画の中間見直しにおいて「㉗方針の決定」と併せて行うこととしましたが、今年度の取組みの中では動きがなかったことから「C」評価としました。

「④電力地産地消の検討」は多摩市と協定を結び電力事業者を決定することで、「㉒広報・見学資料等の充実」はデジタルサイネージを導入できたことから、年次計画以上に取組みを進めることができたため「S」評価としました。

それ以外の項目についても継続的に取組みを進めていきます。

令和4年度 多摩ニュータウン環境組合中期経営計画ビジョン2022について

令和4年度は、『多摩ニュータウン環境組合中期経営計画「ビジョン2022」』（計画期間：平成30年度（2018年度）～令和4年度（2022年度））の最終年度にあたり、その達成に向けて、確実に取り組むとともに、効率的かつ効果的で、安定した工場運営を維持できるよう事務事業を展開しました。

「ビジョン2022」では、当組合の経営方針である「環境にやさしい安全で開かれた多摩清掃工場」の実現のため、4つの目標として、

- 1 安全で安定的な循環型処理の推進
- 2 効率的・効果的な組合運営の推進
- 3 市民理解及び構成市との連携の推進
- 4 次期処理施設に係る検討

を掲げ、目標達成のための12の具体的な取組項目を設定・体系化し、予算・人材を計画的かつ効果的に活用しながら、多岐にわたる対応すべき課題の解決を目指すもので、令和14年度（2032年度）まで運転稼働が可能となった当工場を安定稼働させていくための取組みや次期処理施設に係る検討も含めた計画としています。

令和4年度の進捗状況

経営方針	目標	取組項目	取組内容	進捗状況
環境にやさしい安全で開かれた多摩清掃工場	1 安全で安定的な循環型処理の推進	(1) 効果的な維持管理の推進	① 長期修繕計画の実施	4完
			② 飛灰の削減・搬出方法の検討	3完
		(2) 資源・エネルギーの有効活用	③ 省エネルギー機器の導入	4完
			④ 電力地産地消の検討	4完
			⑤ 資源化の促進	4完
			⑥ 落じん灰回収の検討	元完
		(3) 施設の安定・継続稼働	⑦ ごみ処理区域の再編成	4完
			⑧ 保全技術の維持・向上	4完
			⑨ 効率的な水銀対策手法の検討	3完
			⑩ 不適物搬入の防止	4完
		(4) 危機管理体制の強化	⑪ 災害時対応計画の策定	元完
			⑫ 工場の緊急停止時対応計画の策定	3完
	2 効率的・効果的な組合運営の推進	(5) 効率的な事務執行の推進	⑬ 情報処理システムの見直し	30完
			⑭ 契約制度の見直し	4完
			⑮ 組織体制の見直し	A
		(6) 啓発事業の見直し	⑯ リサイクルセンターのあり方の検討	3完
			⑰ 工場見学の見直し	2完
		(7) 効果的な人材育成の推進	⑱ 研修の充実	4完
			⑲ 人事評価制度の運用及び活用の検討	4完
	3 市民理解及び構成市との連携の推進	(8) 地元住民との関係強化	⑳ 周年事業の実施	30完
			㉑ 地域協議会の設立	3完
		(9) 情報発信の充実	㉒ 広報・見学資料等の充実	4完
			㉓ 新たな情報発信の検討	元完
		(10) 構成市との相互協力の推進	㉔ 工場連絡会の充実	4完
			㉕ 合同研修の開催	4完
	4 次期処理施設に係る検討	(11) 方針と資金の検討	㉖ 構成市のイベントへの参加	4完
			㉗ 方針の決定	4完
		(12) 技術の調査・研究	㉘ 資金の検討	4完
			㉙ 情報収集と資料作成	4完
			㉚ 調査・研究結果の共有	4完

<進捗状況>

30完：平成30年度に完了

元完：令和元年度に完了

2完：令和2年度に完了

3完：令和3年度に完了

4完：令和4年度に完了

S：計画以上に進捗している

A：計画どおりに進捗している

B：進捗が遅れている

C：進捗なし

○「ビジョン2022」の進捗状況について

30個ある取組内容のうち、平成30年度に2項目、令和元年度に3項目、令和2年度は1項目、令和3年度は5項目、令和4年度は新たに18項目が完了しました。

「⑮組織体制の見直し」については、「多摩清掃工場施設老朽化対応の基本方針」において令和5年度に建替時期を決定する予定となったため、人事計画の策定には至らなかったことから「A」評価としました。